

あけのり
柴田明德先生を偲んで

源 栄 正人

●東北大学名誉教授／日本地震工学会名誉会員



写真1 2012年日本建築学会大賞受賞インタビューでの写真

日本地震工学会の名誉会員であり、東北大学工学部工学研究科教授、東北文化学園大学科学技術学部環境計画工学科教授を歴任されました柴田明德先生が令和7年4月にご逝去されました。ここに謹んで柴田先生のご冥福をお祈り申し上げます。

柴田先生は、昭和40年東京大学大学院数物系研究科博士課程を修了後、東北大学工学部助手、東北大学工学部助教授となり、米国イリノイ大学工学部の客員研究員（1973年1月～1974年8月）としての研究活動を経て、昭和61年（1986年）に東北大学工学部教授（建築構造学講座を担当）にられました。東北大学では、工学部の災害制御研究センターの設立に貢献され、センター長も務められました。1999年に東北大学を退職されました。その後、東北大学名誉教授の立場ばかりでなく、東北文化学園大学科学技術学部環境計画工学科教授として、研究教育活動を継続され、2013年には同大学の名誉教授の称号を得られました。

柴田明德先生は、耐震工学・地震工学の専門家として多くの先駆的な研究と後進の指導、育成に努めてきました。その研究成果は、日本建築学会の論文賞や教育賞の受賞につながり、研究教育活動ばかりでなく、社会貢献度も多大であることから2008年には日本地震工学会の名誉会員に選出されるなど、諸学会からも極めて高い評価を受けました。特に、振動・波動の基礎理論を分かり易くまとめた名著「最新耐震構造解析」の出版、および、構造物の非線形応答解析の等価線形

化法に関する研究業績は限界耐力設計法の成立に大きな役割を果たしました。また、確率論的手法を用いた構造安全性評価に関する研究教育に関する実績や、日本建築センターの「高層建築物構造評定委員会」委員や、資源エネルギー庁の「原子力発電技術顧問会」委員、原子力発電技術機構の「安全解析事業運営委員会」委員などを歴任し、高層建築物や原子力施設の安全に対しても技術的貢献を果たしました。加えて、国土庁「国際防災の10年国民会議」運営委員や、宮城県防災会議地震対策専門部会委員、仙台市地震対策専門部会委員、宮城県建築住宅センターの「建築物耐震診断改修評価委員会」委員長を務められるなど、国際貢献、地域貢献も積極的に行って、自治体の地震被害想定等への社会貢献活動の実績も多くあり、2012年には日本建築学会大賞を受賞されました。また、自然災害に関する研究活動として、文部科学省科学研究費重点領域研究「自然災害の予測と防災力」では重要な役割を果たし、研究代表者として取りまとめた「都市住空間の震災予測と耐震化システムに関する研究」（令和2年3月）は、社会的インパクトの大きな防災研究成果となりました。また、国内外で発生する地震被害の調査や調査報告における大所高所からのアドバイスは、常に重要な示唆を与え、2018年には日本自然災害学会功績賞を受賞されました。

私は、柴田先生がイリノイ大学での研究活動を終えて東北大学工学部の建築構造学研究室に戻られた時に、研究室の学部学生（4年生）でした。大学院修士課程の時に耐震工学の基礎としての振動・波動の基礎理論に関する手書きの「柴田メモ」を受けとり、夢中で学習し、卒業論文や修士論文を作成したことを思い出します。その後、私は鹿島建設の武藤研究室と小堀研究室での合わせて19年間の研究と実務を経験しましたが、その間、柴田先生が教授になられた年に、柴田先生を主査として博士号を取得致しました。私は、1996年に東北大学工学部の災害制御研究センターの助教授として赴任し、上司の柴田先生から耐震工学・地震工学に関する研究・教育・社会活動に薫陶を賜り、今は亡き志賀敏夫先生と柴田先生の教えを受けた研究者・実務者で構成する「耐震工学研究会」の設立にも至りました。この研究会はほぼ毎年開催され、柴田先生は、

令和元年の研究会の際に『耐震工学50年』と題した発表をされるなど、武藤清先生の伝言でもある「難しいことを易しく」伝えることを心掛け、地震災害低減のための教訓の伝承を行い続けられました。柴田先生は、常に「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」という井上ひさしの名言を引用しながら、その観点からの活動の重要性を指摘されていました。私は、単純化により分かり易くするのは良いが、単純化の際に失われる要素の影響に対する配慮の必要

性について柴田先生と議論したことを思い出します。

柴田先生には公私に渡り50年間にわたりお世話になりました。耐震工学の研究・教育・社会貢献活動に関するご指導・ご議論をいただいた柴田先生が亡くなったことは残念でなりません。ただ、柴田先生のご遺志をついで、さらに継続・発展させていくことがこれからの関係者の務めだと思っております。柴田先生、ありがとうございました。安らかにお眠りください。



写真2 2019年12月の耐震工学研究会での集合写真（前列中央が柴田先生）